

第6学年 総合的な学習の時間の実践報告

令和元年12月12日(水)6校時
長浜市立びわ北小学校 6年(22名)
指導者 びわ北小学校教諭 河島宏明
長浜ユネスコ協会 片山 勝

1 主題名 「一枚のハガキが支える学び ～カンボジアの寺子屋～」

2 本時の目標

- ・カンボジアの地理や独自の文化があることを理解する。農村部では、様々な理由で学校へ通えなかった子どもや大人が、支援を受けて建設された寺子屋で、希望を持ち意欲的に学習しているようすを知る。
(知識・技能)
- ・寺子屋で学んでいるわけを多面的に考えたり、読み書き、計算が身につけていないと困ると思われる事例を自分事として考えられる。
(思考・判断・表現)
- ・スライドや講師の体験談を通して、カンボジアについて関心を持つ。気づいたことや感じたことを、意欲的に話し合ったり発表できる。自分達にできる支援についても考え、協力して取り組んでみようとする。
(主体的に取り組む態度)

3 主題について

(1) 教材観

○世界寺子屋運動の歴史

日本ユネスコ協会連盟(以下、日ユ連協)(註1)は、「貧しさから学べず、読み書きできない人は安定収入が得られない。その子も同じ道へ。」そんな“貧困のサイクル”を断ち切ろうと、この30年間に、世界で532の寺子屋を建設し、130万人以上の人に学びの機会を提供してきた。(註2)

しかし、世界にはいまだ約7億5000万人の非識字者が存在し、約1億2400万人の子ども(6才～15才)が教育を受けられない状況が続いている。(出典：UNESCO UIS Fact Sheet No.48)

(註1) 第二次世界大戦がもたらした多くの犠牲と苦しみ。その経験と歴史から学び、人類が二度と戦争を繰り返さないためにUNESCO(国際連合・教育科学文化機関)が創設。その理念に賛同した人達により、戦後すぐに民間ユネスコ活動が始まり、1948年、日本初のNGOの一つとして設立され、現在300近い地方の協会が加盟している。SDGsの担い手として、『目標4』を重点ゴールに捉え、「教育を通じたESDの推進＝平和な世界への貢献」を目指して活動している。

(註2) 『民間ユネスコ運動60年史』(2007.6.2 日ユ連協発行)よれば、70年代の国際支援は物資の支援が主流であった。世界寺子屋運動が始まる契機となったのは、87年、コー・アクション(対等の立場で行動)というユネスコ憲章の精神で活動してきた日ユ連協に、故マイケル・ジョーダン氏(米国)より、寄付の申し出があり、寺子屋運動の原資となったこと。また、その年の国連総会で、90年を「2000年までに世界中の人々に教育の機会」を目標とする『世界識字年』に定められたこともあり、89年からこの運動が始まった。

○カンボジアへの支援

日ユ連協の現在の支援国は、カンボジア・ネパール・アフガニスタン・ミャンマーの4ヶ国。近年は、毎年のキャンペーンで日本各地から寄せられる1億円近い支援(募金・未使用切手などの金券・書き損じハガキ等)で、新しい寺子屋建設・運営・教材購入といった支援が継続されている。

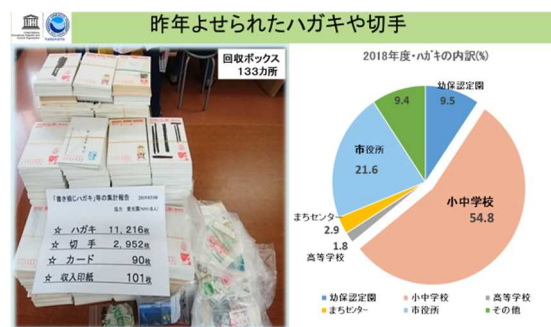
カンボジアは近年目覚ましい経済成長の一方で、その恩恵が受けられていない農村部を対象(シムリアップ州17地域全域)に、識字などの「基礎教育」、職業訓練などの「収入向上活動」、将来の自立運営を前提とした「人材育成」の3つを柱に、様々な学びを提供している。現在、17全ての地域で寺子屋が建設されている。昨年は、日ユ連協カンボジア事務所の指導を受けてきた、センソック・リャンセイ寺子屋が、私たちの支援から卒業し村人による自立運営(4軒目)に移行する見通しになりました。ここ10年で、「識字率の10%以上の改善」を掲げ、今も識字・識字後クラスに700人が参加し、推定識字率は69.5%から、2018年現在で82.4%に改善している。また、「復学支援クラス」を卒業した子どもの中で、「進学支援プログラム」へと進み中学校を卒業する生徒も多くなっている。カンボジアの高校進学率は25%(教育省 2016/17による)とまだ少ないが、こ

の地域の高校進学率は17%まで向上している。

○「書き損じハガキ回収・キャンペーン」

近年、日ユ協連には全国から、100万枚近くの「書き損じハガキ」(募金相当額;約4700万円)寄せられている。

2018年、長浜ユネスコ協会に寄せられたハガキは11,261枚(同:555,095円)で、未使用切手などを併せると、募金相当額は761,951円にのぼった。



(2) 指導観

初めて対面する児童なので、名乗った後、「書き損じハガキ」で後進国の教育支援を行っていることを自己紹介としたい。

ほとんどの児童は外国を訪れた経験は無く、TVや雑誌などで知る機会が無い。アンコールワットという世界遺産があることは知っていても、カンボジアという国にあることやカンボジアが世界のどのあたりにあるかなど知識は無い。

導入の段階で、本時で使用使用するスライドや伝える内容は、授業者が日ユ協連主催のカンボジアスタディーツアー(2019.3.17~21)での見聞に基づいていること話した後、スライドでカンボジアの位置・地形の特徴(ほとんどが平野)・気候・民族衣装などを紹介したい。また、伝統的な布製品(クローマー)を回覧し、色彩の特色や肌触りを五感で感じ取って貰い、授業展開に向けた動機付けとしたい。

展開前半では、先ず、カンボジア農村部で支援している寺子屋で学ぶ子どもや大人のようにすをスライドで紹介した後、“子ども達が小学校を卒業できなかったわけ”を考え、交流する時間を確保したい。と同時に、国は違っても、誰もが夢や希望に向かって今を努力して生きていることも気づかせたい。発表時の指名は、児童を理解の深い担任にあらかじめ依頼をしておく。また、「女性は学校へ行かなくても良い」とする親の考えが原因となっていること、昔の日本にも”女性に教育は必要ない”という考えがあったことも伝える。

次に、“この2枚のスライドから、自分達との教室環境の違いを5つ位見つけて欲しい”と伝え、教科書が全員に行き届いていないこと(ノート・エンピツ・消しゴムといった文房具は無く、小さな緑版と白チョークなど)に気づかせたい。(日本で勉強する君たちは恵まれているなどは、敢えて口にしないでください。)

続いて、夜間の寺子屋(サテライト)では、多くの大人の女性が勉強しているスライドを紹介し、“どうして、夜に、しかも、女性が多いか”について、考えさせたい。なお、長く続いた戦争で、カンボジア人の多くが教育を受ける機会を奪われてしまったことは、スライドでも押さえる。

展開後半は、“もし、自分が読み書きや計算ができないで大人になったら”という設定で、どのような困り事に遭遇するか、想像する時間を設けたい。想像することが難しい児童のために、①薬を飲むとき、②買い物をするとき という場面を補説する。

まとめの段階では、どのような支援ができるかについて、先ず、日本ユネスコ協会連盟が提案している3つの事例、①募金 ②寺子屋で学んだ大人が制作した製品の購入(実物として、ヒヤシンスの茎を乾燥して編んだカバンを提示) ③「書き損じハガキ」「未使用切手」などの金券を現金化する について、説明し、支援には多様な方法があることに気づかせたい。

そして、自分達が取り組める支援について考え、行動する契機としたい。

(3) ESDとの関連

○学習を通して主に養いたいESDの視点

- ・カンボジアの地理や気候の特徴を把握したり、独自の歴史や文化があることを理解する。【多様性】
- ・寺子屋で学ぶ子どもや大人にも同様の夢や希望があり、実現に向けて自分達でも支援したいという心情を育む【相互性】

○学習を通して主に育てたいESDの資質・能力

- ・カンボジア農村部の子どもや大人が、今もなお、寺子屋で学んでいる背景を考える。(世界寺子屋運動は「貧困のサイクル」を断ち切る国際的支援の方法であることに気づく。)
【システムズシンキング】
- ・自分達の学級・学校でできる支援について考え、協力して取り組める。【協働的問題解決力】

○学習で育てたいESDの価値観

- ・どのような人にも学ぶ機会が保証されなければ、幸福になれない。【世代内の公正】

○貢献できるSDGs

ゴール4 : 人は学ぶ機会が保証されて、将来に夢や希望をもって生活できる。(片山による)

ターゲット 4.1 : 2030年までに、全ての子どもが男女の区別無く、適切かつ効果的な学習成果をもたら

す、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。
 ターゲット4.6: 2030年までに、全ての若者及び大多数(男女ともに)の成人が、読み書き能力及び基本的
 計算能力を身に付けられるようにする。・・・【識字】
 ゴール5: ジェンダー平等・・・・・・・・・・・・・・ 【教育の機会均等】
 ゴール8: 働きがいのある人間らしい雇用の促進・・・【貧困のサイクルを断ち切る】

4 評価基準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①スライドや講師の話聞き、カンボジアのも独自の文化・歴史があることを理解している。 ②寺子屋では子どもや大人が意欲的に学習していることを受け止めている。	①寺子屋で学んでいるわけを多面的に考えている。 ②読み書き計算が身につけていないと困る事例を考えている。	①スライドや講師の体験談に関心を持って聞いている。 ②違いや感じたことを話し合っ、発表しようとしている。自分達の学級でも支援に協力し、行動しようとしている。

5 本時の展開

時間	主な学習活動	学習への支援	◇評価・備考
5分	1 本時のねらいを聞く。 2 カンボジアについて知る。 	○”書き損じハガキを見せる。 板書で63円－手数料5円＝と書き、58円の値打ちが残っていることを知らせる。 ○スライドで、カンボジアの位置、地形、世界遺産、国旗を説明する。 ○代表的な綿製品・クローマーの実物を手に取り肌触りを実感させる。	◇「書き損じハガキ」は金券としての価値があることを理解する。 (知・技) ◇カンボジアについて理解を深めている。 (知・技)
10分	3 農村部に建設された寺子屋で、昼間どのような子どもが勉強しているかを知り、「小学校を卒業できなかった」理由を考え、発表する。	○隣の人と話し合うように促す。 ○「女子は学校へ行かなくて良い」という親の考えが根強いことを伝える。 ○100年前の日本も貧しい家庭や女子は学校へ行けなかったことを補足する。 	◇「小学校を卒業できなかった」理由を考え、交流して考えをまとめている。(思考・判断・表現)
20分	また、「わたしたちの教室のようす」との違いを見付け、発表する。 	○5つ位見付けて欲しいと促し、隣どうしで話し合い、気づいた点を発表する。(氏名は担任に依頼)	◇自分達との教室の違いを見つけ、交流に積極的に参加している。 (主学)

25分	4 農村部の寺子屋では、夜、大人を対象にした勉強が行われていることを知り、「大人が勉強している」理由を考え、発表する	<p>○スライドを見せ、長く続いた戦争の歴史に触れる。</p> 	◇戦争で、多くの人が勉強の機会が奪われて、大人になっていることを理解する。 (知・技)
30分	もし自分が、「読み書きや計算ができないまま大人になったら」想像する。	<p>○「自分ごと」として想像して欲しいことを伝える。 ○例に「薬」を飲むときの説明を読むことや買い物をするときの「おつり」の計算ができるか補説する。 ○読み書き、計算できることが生活や仕事でとても重要であることを押さえる。</p>	◇「読み書き・計算」できない様々な困難があることを、「自分ごと」として話し合っている (思考・判断・表現)
35分	5 日本ユネスコ協会連盟が行う支援の方法を知る。中でも、「書き損じハガキの回収」は子ども支援できる方法であることを知る。	<p>○募金の他に、寺子屋で大人が作った物を買ってもらうことで、作り手の収入になったり教材が購入できることも伝える。(実物の提示：ホテイアオイの茎を乾燥させて編んだバック)</p>	○色々な支援があることを知り、自分達も支援に協力しようとしている。 (主学)
40分	6 本時の感想を発表する。	○もっと他にできる支援がないか、自分達で話し合い、何か行動してもらえたら嬉しいと伝える。	

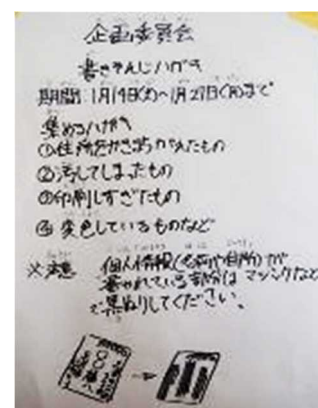
6 成果と課題 (本時を振り返って)

○担任の先生の感想

- ・TVに正対するように机の向きを変えてもらったので、画面が見やすかった。また、TVに机を近づけてもらったので、授業中の隣同士・前後での意見交流がやりやすくなった。
- ・一人一人がよく考えて、意見交換できていたように思う。よく、発表もしていた。
- ・授業後、グループで話し合いの時間を持った。

*自分たちの学習環境はとても恵まれていると感想を述べる児童もいた。

*年賀状を書く時期なので、「書き損じハガキ」を自分たちも集め、支援したい。ハガキ集め以外でもどのような支援ができるか、新学期、企画委員会(児童会)で具体的に話し合うこととなった。具体的には、チラシ(写真:大きさはA4版)を作成し、各学年の教室に掲示してハガキ回収を全校児童に呼びかけた。



○参観者の感想(教頭先生)

- ・授業者が実際に見聞した事実(写真)・見聞をもとに話されたので児童へのインパクトがあった。
- ・授業中、実物(クローマー・手作りカバン)を提示、回覧されたので興味・関心が高まったのではないかと感じた。
- ・児童に気づかせたり、考えさせたり、隣同士で意見交流し発表する時間があり、授業への集中力が持続していた。
- ・TVの映像が小さかったので後ろの児童は見にくい画面もあったのではないかと感じた。スクリーンを用意すると良かった。